

## 式 辞

卒業生の皆さん、本日晴れて卒業を迎えることを心よりお祝い申し上げます。そして、卒業生の皆さんを支えてこられたご家族の皆様、および関係者の方々にもお慶び申し上げます。

本日、皆さんは、この慶びの時に、今の自分と4年前の入学式の日自分を比べてみて、大きな違いがあることを実感されていることでしょう。その成長を支えたのは、勉学や課外活動での日々の努力です。本学での生活を通して、学問の奥深さや学問の喜びを理解しただけではなく、自分で考え、行動する力が身についているはずです。そして忘れてならないのは、そうした成長には多くの支えがあったということです。時に厳しくもいつも温かくご指導をいただいた先生や先輩はもとより、互いに切磋琢磨し、また励まし合った同級生や友人達などが側にいてくれたのです。社会に巣立つ皆さんも、大学院へ進学する皆さんも、この大学時代に得た多くの有形、無形の財産を大切に、今後さらに飛躍されることでしょう。

本学は、昨年10月1日に、開学40周年を迎えました。開学40周年を迎え、「未来構想大学」という新しいコンセプトのもと、「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材育成」を使命として、教育研究を推進しているところです。本学の前身は1872年（明治5年）に明治政府によって我が国で最初の高等教育機関として創立された師範学校に遡ります。東京高等師範学校を経て東京教育大学に至る101年の長い伝統と実績を礎として、1973年（昭和48年）10月1日に従来の大学制度を大胆に組替えるべく「新構想大学」として創設されました。「開かれた大学」、「不断の改革」という基本理念のもと、常に、時代が求める高等教育機関としての役割をしっかりと認識し、改革を続けてきました。40年前に開学した「新構想大学」は、今、未来構想大学へと変わろうとしています。IMAGINE THE FUTURE.というスローガンに託したように、我々はヒトと地球の豊かな未来を思い描き、創り上げることを強く意識しています。この大学を巣立つ皆さんにも、このような本学の精神が身につけているものと思います。

今、グローバル社会は激動しています。そして、我々には国際基準の中での活動が求められています。師範学校から東京高等師範学校に移りゆく中、25年に亘り校長を勤めた嘉納治五郎先生は柔道の父と呼ばれていますが、私はそれ以上に優れたグローバル人であったと考えています。嘉納先生は諸外国に門戸をひらき、8,000人以上の留学生を受け入れたと言われています。その精神は引き継がれ、現在でも本学は国立大学では有数の留学生を迎え入れています。また、本学は5つの国・地域に7ヶ所の海外事務所を有し、55の国と地域及び国際連合大学と合計225件の交流協定を結んでおり、国際社会の中でも際立った教育研究組織です。加えて、本学を中核とする研究学園都市にもさまざまなことばと文化が行き交い、日常的に国際的な感覚を身につけることができる環境があります。皆さんは本学で、そしてつくばの地で十分に国際性を身につけられたのではないかと思います。

皆さんがこれから活躍されるグローバル社会は、科学と技術の進歩の恩恵を受け、便利で快適な社会です。一方で、その恩恵の影では大きな問題も発生してきています。エネルギー・資源に関する問題、産業・経済の低迷と再活性化の問題、食料、少子高齢化の問題を含む人口構成、雇用の問題を含む格差社会の問題など、種々の問題です。このような問題や事態の打開を図るためには、何らかの問題解決の方策が必要です。そして、新たな成長を生み出す努力が必要です。あらゆる意味で開かれた大学で学んだ皆さんには、自律的にそして柔軟に考える力が備わっています。従来のシステムに疑問を持ち、思い込みを捨て、イノベーション

ンを創出する先導者としての活躍を大いに期待しています。

グローバル社会に横たわる問題と問題解決を考える時、重要な点は、いずれの問題も一つの国の努力で解決する問題ではなく、問題を地球規模で共有し、解決に向けた活路を地球と地球社会の一員としての自覚を持ちながら、見いだして行かなければならないということです。そのためには、地球に暮らす人たちの考え方、生活、文化を知り、既存の境界を越えて情報や想いを共有し、連携することが大切です。皆さんは本学ではそれぞれの専門分野のみならず幅広い教養を身につけ、多様な価値観を尊重でき、また新しいことに挑戦する精神や文武両道の精神を培ってきました。また、先にも述べたように日常的に国際感覚を磨くこともできたと思います。

実際のグローバル社会の現場では、コミュニケーションが一つの基盤となります。コミュニケーションは双方向性ですので、自主性、自立性ととともに相手への思いやりや共感、チームワークを大切にする感性が重要です。国と国、あるいは人と人はすべて互いに「同じ」ではありません。「異なっている」はずです。「異なっている」が故に、個々のアイデンティティの確立が必要であり、一方でコミュニケーションが重要です。友情は自分とは「異なっている」人とだからこそ成立するのではないのでしょうか。「同じ」ということと「理解する」ということは別です。お互いの尊敬と理解が強い友情や絆を育むのだと思います。逆に言えば、「人や社会は、皆互いに異なる」ということが、他者や他の社会を理解する前提だと考えられます。「異なる」ということは、多様性を生み出すためにも重要なポイントです。「異なる」に出会うことを恐れるよりは、「未知」に出会うことの喜びの方が大きいではありませんか。

本学を卒業する皆さんの今後の活躍と挑戦を、社会は楽しみに待ち受けています。卒業してからの新しい場所での体験は、楽しいこととともに、未知の体験や予想外の厳しさへの戸惑い、そして失敗もあるかもしれません。困難な決断と選択をしばしば迫られ、対立や争いにつながる場合も少なくありません。これらを乗り越えるためには、合理的思考の上に、失敗を恐れないチャレンジ精神や勇気、そして誠実さや思いやりなどが必要です。

最後になりますが、皆さんがそれぞれに新しい挑戦をすることが、「つくば」らしさを世界に発信することであり、皆さんに続く後輩たちの活動の幅を広げていきます。つくばの地を離れても、大学とともに歩んでいきましょう。社会から見た大学の価値は、卒業する皆さんの価値そのものです。

卒業生の皆さんの門出を祝し、これからの益々の発展と活躍を心より祈念し、私の式辞といたします。

平成 26 年 3 月 25 日

筑波大学長 永田恭介